

## 「村山談話」は、遡れば、外務省 見解、小和田氏、 横田喜三郎氏、東京裁判へ

「私は日本はいい国だと言ったらクビになった」ですっかり有名になられた田母神閣下ですが、昨年から今年にかけて関連本が次々と出版され、いずれも売れ行きはよいようです。通常のレギュラーに加えてですので正直追いつかないのが本当のところなのですが、このほど海竜社から出版された「日本は侵略国家ではない！」も注目の一冊です。

この本は渡部昇一氏と田母神俊雄氏がそれぞれの主張をまとめたものですが、[村山談話](#)について注目すべき記述を渡部昇一氏がされているので、そのさわりの部分を一部紹介致します。つまり[村山談話](#)のベースは外務省が草稿した幻の「不戦決議」であり、[外務省](#)の日本断罪史観は小和田恒氏の昭和六〇年暮れの議会答弁からはじまったという内容です。小和田氏とは言ってもなく雅子皇太子妃殿下の父上ですね。(90-91頁、116-118頁)

定価1200円プラス消費税で全国の書店で好評発売中です（株式会社海竜社刊）。

## 「村山談話」の黒幕・外務省は、日本の外務省か

このいい加減な「[村山談話](#)」で、たった一つだけ、出自について思い当たることがあります。それはもう十数年も前の、幻のような「不戦決議」とい文章の存在です。これは何かというと、真珠湾五〇周年のとき、[自民党](#)が「我が国の過去の行為に対する反省に関する決議案」(仮称)をつくったことにはじまります。

これが一九九一(平成三)年の一二月に、公表前に産経新聞に漏洩してしまったのです。その全文を引用してみましょう。

「柳条溝事件六〇周年、太平洋戦争五〇周年の年に当たり、我々日本人は、多くの国の人々に耐え難い苦しみと悲しみをもたらした我が国の過去の行為について、深く反省する。特に、アジア諸国に対し、過去における一時期の侵略行為や植民地支配のような日本軍国主義の行為について、心からお詫びの気持ちを表明したい。我々は、このような過去の行為を二度と繰り返さないことを誓う。そのために我々は、過去の史に対する正しい認識を涵養し、これを次の世代に引き継いでいくことが重要と考える。我々は、戦後一貫して日本国憲法の掲げる恒久平和の理想と国際協調の理念とを堅持し、世界の平和と繁栄のために努力してきた。世界が新しい平和秩序の構築へ向けて大きく動きつつある中で、我々は、右の目的に向かい引き続き積極的な貢献を行っていくことを誓う」

以上を読むと、「[村山談話](#)」の意味するところと、少しも違わないことがわかります。つまり、[外務省](#)の草稿である「不戦決議」は、「[村山談話](#)」と一致するのです。

のちに、この「不戦決議」自体は反対が多く、批判されます。そのときに[自民党](#)は、「これは[外務省](#)の作った叩き台にすぎない」と弁解しました。結果、これは使われませんでした。ところが、これを村山首相が「[村山談話](#)」として使い、今日なお亡霊のように、日本を恐れさず踏み絵として生き続けることとなります。

このような「日本断罪史観」は、東京裁判の検事側の論告を鵜呑みにしたよりも悪い、[外務省](#)の小和田恒氏の昭和六〇年暮れの議会答弁から始まったことがわかっています。

小和田氏の「東京裁判を受諾して日本は国際社会に復帰した」という表現は、終始一貫変わっていません(中略)。

## 昭和六〇年、ある国会答弁からすべてが狂いはじめた

終戦後[外務省](#)の職員も、[吉田茂](#)や佐藤栄作などの首相経験者も、先の戦争について外国に対しまったく謝る気はありませんでした。

[吉田茂](#)など、「人を食って生きてきた」と豪語し、日本の食糧事情の統計にミスが多すぎるというマツカーサーに、「我が国の統計がそんなに正確なら、戦争に負けていなかった」と切り返すだけの豪胆さを持っていたのです。

それが、いつからぺこぺこしはじめたのか。なぜお詫び政策に移ったのか。

私にはそれが長いこと疑問でした。

そのナゾをようやく解いてくれたのが、[関西大学](#)の谷沢永一名誉教授でした。

谷沢氏によれば、一九八五(昭和六〇)年、[衆議院](#)の外務委員会での小和田恒氏の、悪いのは日本だったとする答弁がこの発端でした。

小和田氏がなぜこのような発言をしたのでしょうか。

それは、小和田氏が東京大学在学中に出会った横田喜三郎氏の影響だろうと思われまます。

横田氏は東京裁判の翻訳を務めた人物で、東大の国際法の教授でした。その彼が東京裁判を国際法に準じて有効なものとして評価しただけでなく、[アメリカ](#)占領軍を擁護する理論を説いていました。

そんな横田氏に、小和田氏は感化されたのでしょうか。卒業後、小和田氏は[外務省](#)に入省し、そののち横田氏は[外務省](#)顧問となったことからしても、二人の関係は決して浅くはなかっただろうことが推測できます。

国会答弁には拘束力が伴いますから、小和田氏の発言が[外務省](#)の見解、ひいては政府見解とみなされ、「日本が悪かった」という侵略史観へと発展していきました。

そして、「[村山談話](#)」となったのです。

ですから「[村山談話](#)」は、遡れば、[外務省](#)見解、小和田氏、横田喜三郎氏、東京裁判と、根をたどることができるわけです。

カテゴリ: [コラム](#) フォルダ: [指定なし](#)   

[コメント\(5\)](#)

タグ: [田母神閣下](#) [渡部昇一](#) [海竜社](#) [村山談話](#) [小和田恒](#) [横田喜三郎](#) [東京裁判](#)

コメント(5)

[コメントを書く場合はログインしてください。](#)



Commented by [花うさぎ](#) さん

・追記1

2009/01/09 19:26

日本を侵略国家であると断罪する[村山談話](#)の白紙撤回を目指しましょう!

2009/01/09 19:33

大東亜戦争終結から五十年という節目となった平成7年8月15日、時の村山富市内閣総理大臣は「戦後五十周年の終戦記念日にあたっての村山首相談話」(いわゆる村山談話)なる声明を閣議決定に基づいて発表しました。

これは即ち日本が先の大戦中、アジアの国々に対して「侵略」や「植民地支配」を行なったものであると定め、日本国として公式に謝罪したものです。

これ以降の歴代政権はその折々言葉を巧みに弄してはいるものの、この村山談話を継承し続け今にいたっています。村山談話が日本国政府の公式の歴史の見解として引き合いに出され、シナや南北朝鮮から侵略国家であるとの誹りと悔りを受け続けております。未来永劫にわたって続く不当な誹り・歴史の捏造を断ち切らなければなりません。

日本が侵略国家であり、犯罪国家であるかのように烙印を押す「村山談話」を断固として白紙撤回させましょう。名もない国民が声を挙げることによってしか、政府の歴史捏造を是正することは出来ません。

「村山談話」を白紙撤回させ、時代を担う青少年に日本人としての自信と誇りを与えましょう。

村山談話の白紙撤回を求める署名をお願いします。

この危急の事態に際し、私達有志は、この「村山談話」の白紙撤回を求める運動を開始しました。

全国からできるだけたくさんの署名を集め、陳情書と共に総理大臣官邸へ提出します。

ぜひ、皆さんの想いを署名という形で示してください。  
ご協力をよろしくお願いいたします。

<http://www.murayamadanwa.com/>



Commented by **花うさぎさん**  
・追記2

2009/01/10 09:15

国益を考える講演会

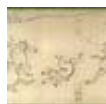
日時 平成21年(2009年)3月22日(日曜日) 開場14:00 開会14:30 閉会18:30 (休憩有)  
会場 長良川国際会議場 メインホール<さらさ〜ら> 入場無料  
定員1600名 (全席指定)

岐阜県岐阜市長良福光2695-2 (岐阜都ホテルから連絡通路有)  
TEL 058-296-1200

特別講演

菅沼 光弘 元公安調査庁・調査部第2部長  
志方 俊之 元陸上自衛官陸将・北部方面総監  
青山 繁晴 株式会社独立総合研究所 代表取締役社長・兼・首席研究員  
特別ゲスト 田母神 俊雄 前航空幕僚長

発起人代表 森 勇 元岐阜県議会議員  
参加呼びかけ協力 代表 せと弘幸 Blog「日本よ何処へ」  
ソプラノ歌手 石田 祐華利 (開会の歌唱 国歌「君が代」)  
司会 田代 直子  
主催 国益を考える講演会事務局  
代表 森 勇 元岐阜県議会議員  
岐阜県岐阜市長住町8-12-202



Commented by **風来坊さん**  
>ですから「村山談話」は、遡れば、外務省見解、小和田氏、横田喜三郎氏、東京裁判と、根をたどることができるわけです。

その通りですね。  
戦後の日本をダメにした最大の戦犯は東大法学部でしょうね。



Commented by [花うさぎさん](#)

2009/01/10 09:57

To 風来坊さん こんにちは。

>戦後の日本をダメにした最大の戦犯は東大法学部でしょうね。

普通の人は東大法学部と言ったらエリートと見ると思うのですが、そこが反日の元凶としたら驚くでしょうね。

>その流れを汲む小和田氏が、国会で、「judgments」のことを「裁判を受諾した」と答弁した罪は大きい。

[村山談話](#)そのものもそうですが、首相や官僚が一度表明したからって、後生大事に受け継ぐ必要性はないと思うのですが？。堂々と「あれは誤りだった、取り消す」で済む話でしょう。

>一方、渡部教授が東京裁判史観の呪縛を解くために精力的に啓蒙活動しておられることに頭が下がります。

氏の活動の大半が「東京裁判」絡みですからもうライフワークといっても良いでしょうね。これからも頑張って欲しい逸材です。



Commented by [parkmountさん](#)

2009/01/12 16:29

To 風来坊さん

>>ですから「[村山談話](#)」は、遡れば、[外務省見解](#)、小和田氏、横田喜三郎氏、東京裁判と、根をたどることができるわけです。

>

>その通りですね。

>戦後の日本をダメにした最大の戦犯は東大法学部でしょうね。

>横田喜三郎なんぞは「如何なる理由でかかる人物が[最高裁](#)長官になれたのか理解不可能、文化勲章まで授与したのは、政府の選考基準が狂っていたから」とまで酷評されています。

>その流れを汲む小和田氏が、国会で、「judgments」のことを「裁判を受諾した」と答弁した罪は大きい。

>一方、渡部教授が東京裁判史観の呪縛を解くために精力的に啓蒙活動しておられることに頭が下がります。

あの公職追放で左翼の権力への侵蝕をゆるしたことや、特に東京帝国大学法学部が赤化したのが、官僚に「隠れ左翼」が多い原因でしょうか。